

年 組 名前：

KDDI と東京医科歯科大 共同研究

「スマホ依存」を防げ

携帯電話天手のKDDIとKDDI総合研究所、東京医科歯科大が「スマホ依存」の改善や予防に向け、共同研究を始めた。東京医科歯科大の「ネット依存外来」を受診する患者のスマートフォン利用ログを収集して実態調査などを行い、患者の治療に役立てるほか、予防に向けたアプリの開発を目指す。

東京医科歯科大大精神科の 高橋英彦教授によると、スマートフォン依存は疾患としてまだ確立していないが、世界保健機関(WHO)が2019年に依存症として認定した「ゲーム障害」と同様に、日常生活に悪影響が出たり、健康を損なったりしているのに過度な利用をやめられない状態を指す。

25%に問題 KDDIなどが19年12月にスマホの利用者約9万人を対象に実施したアンケートでは、約25%が長時間利用などに問題を感じていると回答。うち約83%が改善したいと回答していた。

診察に当たる小林七彩特任助教によると、患者は中高生が多く、気分の落ち込みや意欲低下のほか、睡眠など生活リズムが乱れて学校に通えなくなった例もあった。入院や通院をしながら、心理療法など利用をコントロールするための治療を受ける。

適切な利用

高橋教授は「スマホは生活必需品だからこそ治療が難しく、予防に関する研究も十分ではない。外来での臨床経験とKDDIの技術力を組み合わせ、病態の解明や治療に生かしたい」と話す。

KDDIは別の研究機関と脳科学や人工知能(AI)を活用した調査も進めており、「誰もが適切にスマホを利用できるデジタル社会の実現を目指したい」としている。

(2020年10月17日付 山梨日日新聞13面)

問1

「スマホ依存」とは、どういう状態を指すのか、記事から抜き出してください。さらに、その具体的な症状として、どのような例が紹介されていますか。

状態:

症状:

問2

東京医科歯科大のネット依存外来への問い合わせは、新型コロナ感染拡大前に比べ拡大後は、何倍近くに増えましたか。正しいものに○をつけてください。

[ ] ① 3倍 [ ] ② 7倍 [ ] ③ 10倍

問3

あなたは、今後の適切なスマホの利用方法について、どのようなことを考えますか。

.....

.....